

様式(7)

報告番号	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">甲 保</div> 第 8 号 乙 保
論 文 内 容 要 旨	
氏 名	岡 久 玲 子
題 目	Development of a Strengths Measurement Scale for the lifestyle transformation process 生活習慣変容過程におけるストレングス測定尺度の開発
<p>本研究の目的は、生活習慣の変容過程にある人々におけるストレングス測定尺度（SMS）を開発し、その信頼性と妥当性を検証することである。生活習慣病予防のための保健指導にストレングス理論を導入する足がかりとする。</p> <p>SMS原案は、著者の先行研究にて成人25人を対象とした質的帰納的研究により作成された。その後、平成25年8月から10月に、予備調査を経て提案された38項目からなるSMS（本調査版）を用いた無記名自記式質問紙調査を実施した。対象者は、20歳から64歳の日本の成人1,339人であり、事業所及び研修実施機関などの協力を得て質問紙を直接配布し回収は任意提出の方法をとった。本研究に当たり、徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号1316）。</p> <p>回収した質問紙1,229部（回収率91.8%）のうち1,160部を分析対象とした（有効回答率86.6%）。ストレングス測定尺度38項目について探索的因子分析を行った結果、【活用】、【再構築】、【つながり】、【自己理解】の4因子36項目を採択し、SMS（最終版）を作成した。</p> <p>SMS（最終版）の因子構造について、諸外国の先行研究Inner Strength Scale（スウェーデン）、Inner Strength Questionnaire Version 4（アメリカ）との比較を行った結果、どの尺度もSMSの【つながり】、【自己理解】と同様の因子を含んでいた。しかし、SMSの【活用】、【再構築】は、認識面だけでなく、長期的展望のなかで発揮される行動面の力をも含んでおり、慢性疾患をもつ女性や高齢者を対象に開発されてきたInner Strengthと異なる側面を有していた。</p> <p>信頼性の検証として、クロンバックの<math>\alpha</math>係数はSMS全体で0.941、各4因子では0.876～0.926の範囲であった。収束的妥当性の検証として、SMSと修正版主観的健康管理能力スケール日本語版(PHCS)との相関係数は<math>\rho=0.495</math>、精神的回復力尺度（ARS）とでは0.520と、どちらも有意な正の相関が認められた。また、健康関連QOL尺度（SF-8）の精神的健康との相関係数は0.222であった。基準関連妥当性（併存的妥当性）の検証では、SMSと生活習慣との相関係数は0.350、行動変容ステージとでは0.366であった。年齢との相関関係はほとんど認められなかった。</p> <p>以上の結果より、SMSの因子構造を明らかにし信頼性と妥当性を確認することができたと考える。今後増大することが予測されている生活習慣病予防のための保健指導に、本尺度を使用することの可能性が示唆された。</p>	